

## 横浜市 在宅における医療・保健・福祉の連携モデル発表会 ご報告



日時:平成 20 年 2 月 9 日(土)午後 13:00～

場所:西公会堂講堂

基調講演:宮川小児科内科医院院長 宮川政昭氏

「保健・医療・福祉の融合に向かって」

発表事例:◆中永谷ケアクリニック 医師 飯田明氏

「在宅医療での訪問前カンファランスの意義」

◆横浜市介護支援専門員連絡協議会 柳田謹一郎氏

「連絡ノートを活用した在宅における保健・医療・福祉との連携」

◆めぐみ在宅クリニック 喜多かおる氏、  
瀬谷区メディカルセンター訪問看護  
ステーション 大嶽朋子氏

「地域緩和ケアチームに向けた人材育成」

これまで行なってきた地域緩和ケア研究会、デスケースカンファレンス、遺族調査を踏まえ、終末期に向き合うことのできる人材育成が求められることについて発表しました。

地域で苦しむ患者さん、家族と逃げないで向き合える人材が、地域の訪問看護ステーション、ケアマネジャー、訪問薬剤師、ヘルパー派遣事業所、それぞれに増えたとき、そこには新しい連携が生れてくることでしょう。



発表後のディスカッションでは、会場から、「励ましではなくどんな方法か教えてください」と質問がありました。

喜多先生より、向き合うこと、聴くということ、また時間内で説明できないけれど、講演や研究会として学んでいることを紹介しました。また、大嶽さんより、逃げないで向き合うこと、というお話を再度していただきました。

さらに、会場にいらしていた佐藤看護師から「苦しんでいる人は自分のことをわかってくれる人がいるとうれしい」という話をしていただきました。

会場には、永瀬さん(薬局瀬谷)、中野さん(わくわくワーカーズ)、瀬谷メディカルの皆さん、ほうゆうの方、他にもみなさんがかけつけてくださいました。ありがとうございました。これからも、“存在と生きる意味”を支える援助としての連携を深め、質の高いケアを提供し、“どこで生活をしていても、どんな病気であっても、安心して最期を迎えることができる社会”を目指していく努力を続けてまいります。

今回の「在宅における医療・保健・福祉の連携モデル事業」にご協力をいただいた多くの方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。